市民ワークショップ

市民同士や市民と職員との対話のなかで、羽村市の"宝"や"未来に残していきたいもの(こと)"、市の強みなどを把握し、未来の羽村市の姿を検討することを目的に、一般市民向け、子育て世代向け、若者世代向けのワークショップをそれぞれ実施しました。

一般市民向けワークショップ

~羽村市の10年後を考える市民ワークショップ~見つけよう、あなたの理想の未来の羽村~

【概要】

実施日時 第1回 令和2年10月17日(土)午前10時~正午(ゆとろぎレセプションホール)

•会場 第2回 令和2年10月30日(金)午後7時~9時(市役所大会議室A)

第3回 令和2年11月8日(日)午後2時~4時(市役所大会議室A)

対 象 ・市政世論調査対象者(1,200人無作為抽出)

・ 転入者アンケート調査対象者(1,000人無作為抽出)

一般市民の方

参加者 市民:33人(延べ)(実人数14人)

若手職員:5人(実人数)

検討内容(テーマ)

第1回「考えよう!羽村市の"宝"や"未来に残していきたいもの(こと)"、市の強み」

- ・羽村市の強み(「宝・誇れるもの」「未来に残していきたいもの」)
- ・羽村市の弱み(「残念なところ」「未来に残したくないもの」)
- ・羽村市にとってのピンチとチャンス
- ・今後の羽村市の未来につながるキーワード

第2回「考えよう!10年後の羽村市の姿」

- ・10年後の羽村市の理想生活を考える
- まちのコンセプトを考える(「OOを活かして、OOな生活ができるまち」)

第3回「考えよう!10年後の羽村市の姿を目指してできること」

・ 羽村市の「未来のためにできること」を考える

コーディネーター 松本祐一さん(多摩大学経営情報学部教授)

「羽村市の強み・弱み、羽村市にとってのピンチとチャンス」と「羽村市の未来につながるキーワード」

第1回のワークショップでは、「羽村市の強み・弱み、羽村市にとってのピンチとチャンス」の洗い出しと、その結果から、「羽村市の未来につ ながるキーワード」を考えていきました。

※一般市民向けワークショップは、3グループに分かれて検討しました。そのため、検討内容や提案の結果は、それぞれのグループごとに記載しています。

グループ1

弱和

・交诵が不便なところ

・歴史、レガシー、施

設の充実が今一つ

・市の施設が有効活用

・空き家ができている

・農地の相続による減

少(→まちの魅力崩

ピンチ

されていない

・市の税収の減少

町内会の加入者

壊)

の減少

・郷土を知らない

もある

・コンパクト(歩いて行 ける、自転車で行ける)

· 歴史資源

強み

- 神計 · 動物公園
- 7k ・先手の気質
- ・歴史と賑わいのミック ス(まいまいず井戸)
- ・産業、住居、商業の バランスが良い
- ・チューリップ畑
- ・コロナ感染者数増えて いない
- · 外国人労働者(居住

キーワード

になる!

- 者) の増加



羽村市の未来につながる

活用

施設、歴史資料など強みになる部分が あるが、うまく有効活用されていない!

3 班とも未来につながるキーワードは、 <あるものを活用すること>。 これが羽村市の課題であり、チャンス

グループ2

強み

- ・安全 ・自然 ・玉川上水
- ・工業団地・福祉施設が多い
- ・元気な高齢者が多い
- ・街がきれい (住民意識が高い)
- ・伸びしろがある (むしろ多い)
- ・先人のやる気、新しいまち を作るチャンス!
- すごい力を持っている方が 隠れている
- ・市が個人経営者とのパイプ 役になればハッピーでは?
- ・利用価値のある場所がたく さんある
- 昔から変わらない(伸びし ろがある)
- ・企業と市民の協働があると よい
- ・隠れた人材が多い
- トイレが多くきれい
- ・市民の巻き込み活動
- まちを愛している
- ・西口開発を早く進める

チャンス

3334

- ・福祉施設がせっかく あるのに使われてい ない
- ・特筆すべき特色がない
- ・施設が点在している
- 横のつながりが少ない
- 市からの発信が少ない
- どうしていいか分か らない
- ・財政難
- 街がさみしい
- ・ローカルコミュニティ があまりよくない
- 西口再開発の遅延
- ・市民が知らない事実 が多い
- ・市長選、市議選に出 る若い人がいない
- お金任せのアウト ソーシング(市民の 自立を阻害?)

強み

- 水はむら
- ・動物公園
- ・多摩川
- ・自然豊か
- ・文化、神社・仏閣が 多い
- はむらふるさと祭り (全小学校参加)
- ・ 圏央道・横田基地が 近い

3324

グループ3

- · 拡張性不足
- ・交通アクセスが悪い
- 羽村駅西口開発が進 まない

- 動物公園の目的外利用
- ・大河ドラマで玉川上水
- · 横田国際空港
- ・モノレール

- ・動物公園、清里の 財政負担
- ・工場企業誘致

チャンス



Keyword For the future 羽村市の未来につながる キーワード



あるものを活かす

良いものをたくさん持っているが、十分 活かされていない。活かせば具体的なチャ ンスになる。

例えば、玉川上水に大河ドラマを誘致、 動物公園の目的外利用などを行うと、もっ ともっと羽村市に元気が出てくる!

Keyword For the future 羽村市の未来につながる キーワード

眠った伸びしろ情報提供

良い施設はあるが、知られていない。その理由 は、市からの情報発信が分かる人には分かるが全 体に行き渡っていないから。

ハード面だけでなく、技術を持った人材も隠れ ている。年齢に関係なく、羽村は人材の宝庫!

「10年後、羽村でできたらよい生活」と「10年後の羽村の理想の姿(まちのコンセプト)」

第2回のワークショップでは、「10年後羽村でできたら良い生活」を洗い出して分類化し、それらのまとめや注目すべきものから、どのような生活(こと)ができるまちがよいか、「10年後の羽村の理想の姿(まちのコンセプト)」を考えていきました。







▲一般市民向けワークショップの 様子





グループ1

遊ぶ	参加する	大学を作る		
・落ち葉のプール・休日はスポーツをしながら暮らせるまち・きれいなコーヒーショップで読書	 ・遺跡発掘に参加できるように市が情報発信 ・歴史遺産の整備と活用と参加・働きたい人が働ける社会(高齢者や障害者)	・デジタル大学の設立 (データサイエンスを含む) ・学園都市(デジタルの重視) → 学び直しができる		

	学ぶことができる	
移動する	PRする	住む
・高齢者が散歩できる ・はむらんでの移動 ・バス停の充実化 ・買い物がしやすいまち(衣服なども簡単に買える) → ・動物公園、郷土博物館、チューリップ畑などの市の名所や、買い物、病院に行くことができる ・売り切れ前に直売所に行くことができる	・「おいしい水」 No.1 ・ゆるきゃらグランプリNo.1 ・ゆとろぎでライブ・講演会 ・映画の舞台(アニメ、漫画 とコラボに聖地巡礼) → 羽村市が有名になる → 自分たちが暮らしやすくなる	・認知症の人でも困らず暮らせる ・医療関係モールができる ・自給自足 ・予防医療の進化(深化) ・国際的なまち、多文化共生 が実現した社会 → 羽村市に住もうとする人が増える → 市の活力が維持されて暮らし やすくなる



10年後の 羽村の 理想の姿

コミュニティバスはむらんを活かし、誰でも便利な 生活ができるまち

遺跡や歴史遺産の学びの部分や、動物公園や買い物、病院など、羽村の良さを生かすための「移動手段」がまだ充実していない。

また、高齢者や外国人など、さまざまな方に向けた暮らしの部分が充実していくと良い。

はむらんは空いている時間もあり、活用できていないこともある。デジタルフォーメーションなどを活用してうまく回転できるとよい。

「10年後、羽村でできたらよい生活」と「10年後の羽村の理想の姿(まちのコンセプト)」

グループ2

動く	集まる	知らせる	考える
・ はたとすむとかけれる。 ・ はこやは穂いは高な人あきないがない。 ・ はこやは穂いは齢方にらやづたにいるのでいる者、便ゆすくづたにいるが、 をは会の携を体どな人創をりのでいるが、 ・ はこやはたがは、 ・ はこやはたがまがないがないがでいるがは、 ・ はこやはたがでいる。 ・ はこやはたがながないがないがないがないができたがないができまた。 ・ はこれがないがないがないできまたがないできますがないできます。 ・ はこれがないできますがないできますがない。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	 ・ じる場子では、 ・ じる場子では、 ・ では、 ・ では、 ・ では、 ・ では、 ・ では、 ・ では、 ・ でも、 ・ できる ・	・まちたマイントでは、 ・またマインにドチントでは、 ・カンにドチントでが、 ・カンにドチントでが、 ・カンにがラフトででは、 ・カンにがありますが、 ・カンにがありますが、 ・カンにがあるが、 ・大がの異ない。 ・大がの異ない。 ・大がの異ない。 ・大がの異ない。 ・大がの表が、 ・大がの表が、 ・大がの。 ・・、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	施設の目的、付帯施る→年代で情報の得レを使うかは2極化)るものは何かができる!



10年後の 羽村の 理想の姿

市民のアイデアを活かし、人々が集まりやすいまち

羽村は都会からも田舎からも同じ時間で行ける真ん中の位置で、その地理的な部分を活かして何ができるか。

羽村に人を集める際に、施設の目的や、付帯施設の充実を掲げ、さらに、施設へのはむらんの巡回を行うと、人が集まっていく。

市民がまちづくりにもっと参加するためには、広報の使い方として、市に寄せられる苦情を市が回答するのではなく、市民意見を募る取組みなどを行うことなどに、市民がもう一歩まちづくりに入っていくヒントがある。

グループ3

コミュニケーション 広がる	羽村を知って もらえる	人の往来を 良くする
・町内会活動を活発 に・子ども・高齢者の 対話を増えたるよう ・立場を感じるまし ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・圏央道小作イン ターチェンジ ・横田国際空港	・羽村街道と羽村 大橋のドッキン グ・モノレールの 羽村駅への延伸・玉川上水でボー ト運用
	, ,	ゲ ーワード ウホームセンター バくり大学



ソフトとハードの調和を活かして安心な 生活ができるまち

多摩川流域には、地域の自然や、人々のぬくもりを持つ癒される空間がある (ソフト面)。

青梅線以東は、ハード部分。交通インフラを整備し、 人の往来を良くすると、工場誘致などができる(ハード 面)。

「東側(工場)で働いても、西側(多摩川エリア)で癒される」というような、まちの展開ができる。 10年後の理想には、豊かさより、安心が欲しい。

「10年後の羽村の理想の姿(まちのコンセプト)を実現するためにできること」

第3回のワークショップでは、第2回でまとめた10年後の羽村の理想の姿(まちのコンセプト)を実現するためにできることを、具体的に、たくさん集め、行政・企業・自治会・学校・市民などに実施主体を分類しながら考えていきました。

グループ1

10年後の 羽村の 理想の姿

コミュニティバスはむらんを活かし、誰でも 便利な生活ができるまち

個人 (市民)

- ・町内会等に積極的に参加する
- ・あいさつ
- ・市の事業にできるだけ参加し、 情報を得る
- ・地域の方々とコミュニケーションを多くする (隣近所)
- ・市史、文化財に対する知識を 得る
- ・花いっぱい運動の参加
- ・地域に居住し、いろいろな問 題点を近隣の方々と率直に話 をする

町内会・自治会

・町内会への積極的な勧誘

行政

- ・他市とコラボ
- ・SNSのフォロワー
- ・プログラミングの知識
- ・デジタル大学の創立
- ・一時保育の無償化または安く
- ・羽村七福神巡り。神社と観光 歴史資源を結び付けて、点から 線への展開
- ・遺跡や文化財巡りに物語性を 持たせてガイドする。
- ・ポスターを貼っておけるスペース
- ・はむらんタクシー(免許返納 者や高齢者・障害者等に対す る無償化)

・特産品(手土産になるような)

- ・遺跡・文化財に関する商 品を博物館などで売る
- ・羽村市内での雇用
- ・eスポーツの大会誘致、スポンサーの獲得 **ヘザ**・

企業も一緒に

まとめ・・・・

主に行政にやってもらいたいことが多くなった。

eスポーツの大会誘致などのデジタルの話から、歴史的なものの情報発信などの意見があった。また、羽村市の特産品と言われて思いつくものは、水かチューリップくらいで、他地域に持っていく"羽村のお土産"というものがないので、そのようなものを作れたら良い。

町内会等は、積極的な参加を呼び掛けるところと、そうでないところの差があり、地域の人とのコミュニケーションをとっていけたら良い。

グループ2

10年後の 羽村の 理想の姿

市民のアイデアを活かし、人々が集まりやすいまち

個人(市民)

・町内会、青少対などの役員の活性化

- ・大人と子どもがかかわりあう意識の 継続
- 子どもと大人の「つながり」の 重要性をどう維持していけるか
- ・小さな企画(コミュニティ)を 増やす。同じようなグループが大きくまとまる。

子どもが残りたいまち

・市民が自分たちの活動を紹介できるホームページなどの作成

行政

- ・広報:町内会の掲示板の有効活用や、イベント 当日に、放送を入れて、イベントを紹介。
- ・既存施設の有効活用のため、市民アイデアを 集める!羽村駅改札前の掲示板の掲示方法は?
- ・公園内にBBQ場の設置(既存施設もその存在が広がる)
- ・はむらんの無料化、本数を増やす。「コミュニ ティバスの目的達成を目指す」
- ・若い人(高校生など)の意見集約を!
- ・ 青少対そのものは重要であり、現代版に書き換えたらどうか。

企業

- ・市内企業を紹介してくれる総合窓口的な施設の設置 (ちょっとした生活の中で困ったことを解決してくれる窓口)
- ・会社の紹介(得意分野は何か、一般市民に分かりやすく、面白く紹介)
- ・企業との災害時の支援締結 ・イベントなどで、市民がより身近に接することができるように

まとめ・・・・・

10年後、人を集めることをポイントに置き、①人口を増やすのか、②遊びに来てくれる人を増やすのかの2点を整理し、住んでいる人が住みやすいことが一番重要で、それが市のPRにもつながっていくと考え、人口を増やす方向性で考えた。

人口を増やすためにできることを考えると、行政の役割が増えた。具体的には、町内会の掲示板や、新しくできた羽村駅改札の掲示板の効果的な活用方法、防災無線のイベント周知の活用などである。あるだけでなく、どう活用するのかが大切である。BBQが流行っているなか、堰下レクリエーション広場はあまり知られていない。街中の公園や、温浴施設の近くにBBQ場をつくることで、別の場所にもBBQ場があることを知ってもらえる相乗効果が期待できるのではないか。施設間の移動には、無償化したはむらんに、いつでも気軽に乗ってもらえるようにし、コミュニティの活性化につなげていくことが必要ではないか。

また、人とのつながり、大人と子どものつながりの継続や、企業と市民をつなぐイベントも必要ではないか。

「10年後の羽村の理想の姿(まちのコンセプト)を 実現するためにできること」

グループ3

10年後の 羽村の 理想の姿

ソフトとハードの調和を活かして安心な生活ができるまち

優良企業誘致

• 成人式

・バーチャル同窓会

・同窓会フェスティバル

行政

個人(市民)

- ・挨拶(近所、お店)
- ・家族と話す
- はむらんを使う
- コミュニケーションの広がり
- · 文化協会、体育協会
- ・神社・仏閣が多い
- メリット ・リーダー養成
- · 町内会加入率
- リアルはリアル (バーチャルと分ける)
- ・バーチャル町内会
- ・年代、趣味で分かれる
- リアルとは別軸で横のつながり
- ・ピアノ教室

自助

共助

・若い人メリットがないと

企業

・分かりやすい工場 (会社) マップ

防災訓練

社会福祉

・地元への就職

まとめ・・・・

前回までで、求めるものは豊かさより「安心」ということを打ち出した。そ

に繋がっていけば、コミュニケーションがさらに広がり、安心感につながる。 それをつなげていくことが行政の役割である。また、町内会など皆で助け合う (共助) ためにコミュニケーションの輪を広げておきたい。

また、団体に参加していない個人をつなげるために、行政が音頭をとり、企 業がスポンサーについてイベントを開催し、コミュニケーションを広げて、地 域が広がって、安心につながれば、10年後の羽村の理想の姿になっていく。

コーディネーターからのコメント

ワークショップでは、参加者の皆さんの熱い想い、 考え方の斬新さが非常に勉強になった。

これまでは、組織の時代と言われ、企業、行政、 地域の団体など、所属している組織を背負って活動 していた。しかし、今回のワークショップでは、一 人ひとりが想いや考えを持って行動すれば、組織に 関係なく、繋がったり、新しいものを生み出せると 感じた。

これからは「協創」の時代。多様な人たちが一緒 になれば、様々な問題が解決でき、新しいものも生 み出せると信じている。今回このメンバーで集まれ、 話ができたことはその第一歩になったのではないか。



松本祐一さん (多摩大学 経営情報学部教授)



子育て世代向けワークショップ ~おしゃべりCafe in Hamura Zoo 語ろう「羽村の宝! & 10年後の羽村! I ~

【概要】

市内外の子育て世代の方の人気スポットである動物公園を開催場所とし、新型コロナウイルス感染症への対策を 講じながら、心地よい秋空の下、リラックスした雰囲気の中で開催しました。

※「東京で子育てしやすいまち」を推進するプロジェクトである「はむら家族プロジェクト」に位置付けて実施しました。



実施会場

検討内容

対 参加者 第1回 令和2年11月4日(水)午前10時~正午

第2回 令和2年11月8日(日)午前10時~正午 ※同一内容で実施

羽村市動物公園芝生広場

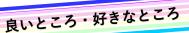
市内在住・在勤で、乳幼児~小学生のお子さんがいる方 10家族(28人)

- 羽村の好きなところ・残念なところ
- ・10年後の羽村について考える 「こんな羽村で子育てしたい」 「子どもたちが大きくなった時、羽村はこんなまちであってほしい」 「10年後の羽村の姿」









◆地域の人、近所の人が優しい

保育園の見学や、市役所の対応も、人に優しい。 これまで、日本のさまざまな地域で暮らしてから、 羽村に来たが、どこを取っても羽村はやさしい。

◆地域のつながりが深い

- 町内会などが強い所は防災力も強い。加入しない ● 人も多いが、加入すると地域の情報ももらえて、 万が一の際も助けてくれる。
- ◆根がらみ前水田が良い、癒される
- 一年中癒される田舎風景(あぜ道・水車小屋・夏の稲)。 ● 一年を通じていろいろな体験ができる。子どもにも自分 が小さいころに遊んだ遊びをさせてあげたい。

◆公園がたくさんある

徒歩圏内に公園がたくさんあり、新型コロナウイルスに よる自粛中、児童館に行けなくても大丈夫だった。小さ い子どもが遊べる遊具もあってよい。遊びやすい。

◆まちなみが良い

土地もアップダウンが少なく、大きな山もない。子どもがまだ小 ● さいですが、ベビーカーを押しやすく、散歩がしやすい。小さい 商店(パン屋さん)なども残り、ただ散歩をするだけでも楽しい。

◆保育園がすごい、すばらしい

市内に認可保育園が13園・認証保育園が3園と、コンパクトだけど ● 保育園がたくさんある。園同士の情報が密。毎月園長の会議を 行っているところは日本中見ても他にない。保育展も開催してい る。それぞれの園の良さ・カラーがある。

◆児童館がある

お弁当を持参して館内で食べられ、雨の日でも行けるので助かる。 ● それぞれ特色があるので良い。相談員もいるから、気軽に相談も できる。保育園・幼稚園の情報も聞ける。中央児童館にはプラネ タリウムがある。

◆インスタグラム・Facebookを運用している

フレンドリーな配信内容で好印象。内容や目線が子ども・若い世 ● 代に向いていて、イベントもわかりやすい。インスタグラム・ Facebookともに、家族写真撮影会・家族ミーティングなど、市民 を巻き込んでの活動がうまい。

<そのほかの意見>

- 図書館(子連れ (1)
- ゆとろぎ(エレ ベーターと図書 ベント)
- 多摩川
- 羽村の堰
- チューリップ畑
- 花が植えてある
- いしい
- 自然がいっぱい ライオン餃子
- 静か
- 病児保育、病後 児保育が頼みや すい

- 羽村市動物公園 学童の預かり時 間が長い
 - でも行きやす ・ 助産院が近くに ある(産後ケア が楽に受けられ る)
 - 館への通路やイ ・ 地域のイベント が色々ある。
 - おまつり
 - 外遊びが充実し ている。
- 中車水車小屋 ・ はむりんがかわ しいしい。
- 水がきれい、おはるのひ(べー) グル屋)
 - (餃子屋)

残念・いまいちなところ

◆PRがもう一息、知られていない

羽村が「どこ」か知らない人が多い。良い所・自慢したいところがあるけれども情報発信がいまいち。根がらみ前水田も川もよい所なのにもったいない。プロモーションにお金(予算)を使うとほかの本当にお金を使わなければいけないところに使えなくなると思うからバランスが難しい。羽村大橋の下と対岸をつなぎジップラインにしたり、川沿いでキャンプやBBQ施設を作って行ってみたいと思わせるよう

◆名物がない

その名前を言えば羽村!となるものがない。羽村のお土産もない。「ドンッ」と売れるものがほしい。羽村と言えば、チューリップくらいしかなくて残念。

◆屋外プールがなくなり残念

水上公園がなくなったことは残念だが、代わりに、子どもが楽しめる施設(川をせき止め釣り堀や川遊び場など)を作ってもらいたい。 サイクリングロードにつなげて楽しめる空間づくりもできるのではないか。遊びに来る人は、羽村・青梅を超えて奥多摩に行ってしまう。企業と連携してそのような場を作るのも良いと思う。

<そのほかの意見>

- 道路の起伏がガタガタ
- 歩道が細い
- 街灯が少ない
- はむらんの本数が少ない
- 予防接種(インフルエンザ)の助成がない
- PTA・教育がしっかりしているが古い(もっと今のお母さんやお父さん、子どもに対して自由な風を吹かせてほしい)
- 保育園(幼稚園)の所在 地が偏っている(市が補助金を出してでも分散で きるようにしてほしい)
- 保育展は良いが、幼稚園 の情報も同時に聞ければ さらに良い
- 子育てしやすいまちを もっとアピール

こんな羽村で子育てしたい

こうすれば (こうなれば) もっと羽村で子育てしやすい点を お話しました

時代に合わせた教育体制

にすることもできる。

- 小さい子どもがいる家族に手厚い 支援
- 子連れでも行きやすい病院が増え るとよい
- 土曜日や日曜日に仕事をしている 親でも参加できるイベントを開催 し、交流の場を作ってほしい
- 散歩道(川沿い)を子連れでも行 きやすいように整備してほしい
- 歩道を広く明るくしてほしい

- 公園に小さい子どもが遊べるもの (ブランコ・滑り台)があったら よい
- 公園マップの作成(設置遊具の対象年齢、駐車場の有無などのコメント付き)
- 宝探しなどができる公園(子ども が考えて遊べる)
- 手入れの届いた公園(公園の木や 枝が落ちていて危ない)
- 羽村市動物公園 市内の人にはチケットをプレゼントしてきてもらっ

10年後、その先へ残して いきたいもの

- 自然と自然の中での体験(田植えや稲刈りなど)
- 人同士のつながり、他の地域から来た 人を受け入れる姿勢(他の地域から来 た人を受け入れ、力を活かしてみんな で作り上げるまち)
- 今の取組みを続けていく
- インスタグラム・Facebookを通じた情報発信(少しずつ進んでいるが、全国に羽村市を広める変化はまだまだ。着実に進めていくしかない)
- 子育て世代が自分事としてまちづくり を考えていかないといけない。

子どもたちが大きくなった時に 残していきたいことなどを お話ししました

<プラスされると良い点>

- 羽村市の知名度向上のために
 - →企業をキャッチして一緒に名を広めていく
 - Ex.チームラボとコラボし、多摩川 や動物公園を舞台に何かやると 良いのでは。
 - →市民自身に羽村市を広めていくというスイッチが入れば、知名度が どんどん広まっていくのではないか。そのきっかけは必要。
 - →市の規模がちょうどよく、進めるとなった際も団結しやすい

10年後の羽村はこんなまちであってほしい!

10年後の羽村の姿を 一言で表していただきました

- ♥いつまでも過疎化と無縁 活気あふれる市
 - 人口減少・少子化で10年・20年後に人口は減少するが、人が少なくなっても 活気に満ちて、市民もみんなで良くしよう!という気持ちを持てる市に
- まアップグレード羽村
 - いままでの歴史を活かしながらも道路・公園・保育園など住みやすくなるためさらにアップグレードする。
- ますべての年代に優しい羽村(よりそう羽村)
 - 子育てしやすい羽村にしようとしているため、少しずつでも「変えていく」 ことを続けてほしい。子育てだけでなく、お年寄りにもやさしいまちに

- **\$**今よりも羽村に子どもが増えている!
- ・主体的なまち 住民の意識、世代間交流・尊重
- ・子どもたちも高齢者も安心して暮らせるまち
- **□** 時代に合わせた教育が受けられるまち
- ・ 録いっぱいでデジタル(オンライン)も両立したまち(すべての人に寄り添って)
- \$自然がいっぱい 笑顔がいっぱいの街
- **常教育の充実(中高一貫とか最先端の教育が受けられる)**
- **☆**との世代の人も「個」として尊重されて暮らし良く風通しの良い笑顔あふれる羽村
- **\$**人が集まれる場所を(ショッピングモールとか)
- **3** 商業施設の充実 221

若者世代向けワークショップ ~オンラインで語ろう、羽村市の10年後 羽村のワカモノワークショップ~

【概要】

新型コロナウイルス感染症の感染状況や、多くの大学等でオンライン授業が実施されていること、 テレワークの実施が推奨されていることなど、若者世代を取り巻く状況の変化を踏まえ、ウェブ会議 ツール「ズーム(Zoom)」を活用し、オンラインで実施しました。

実施日時 令和2年11月18日(水)午後7時~9時

対 象 おおむね10代~30代の市内在住・在勤・在学の方

参加者 5人

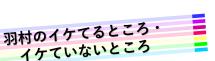
検討内容 「自分たちが10年後住みたい羽村市はどんなまちか」

• 羽村のイメージ

・未来の理想の暮らし

・羽村のイケてるところ(良いところ)、イケてないところ(良くないところ)

コーディネーター 松本祐一さん(多摩大学経営情報学部教授)





羽村市のイメージ

☆コンパクト

商業施設・住環境・自然が バランスよくまとまっている!

☆なんでも近くにある

ال

小さい面積の中に、レジャーを含め、生活に必要な 全てのものがギュッと詰まっている!

☆広い道路・団地・工場

初めて羽村に来た時に、道路が広いと感じた!

党水

玉川上水の起点!おいしい水が水道から出ている! はむりんも水にちなんでいる!

☆知られていない

私立の中学校・高校に行っていたが、友達から羽 村ってどこ?と言われ続けてきた!!!

イケてるポイント

- 自然(水、羽村堰、チューリップ畑)
- 動物公園(自分の子どもと自分が小さいときに行った場所を共有できる)
- 森や木の雰囲気など、手入れされている感じがあり、全体としてきれいで明るい
- 駐輪場がタダ
- 新型コロナウイルス感染症にかかる商業支援が早急で、団結力がある(テイクアウト支援)
- 子育てしやすそう(保育園も入りやすい、車でちょっと出れば大きいモールにも行きやすい)
- 空間的なゆとりがちょうどいい。ちょうどいいがランスでお店が配置されている
- 伝統を地域の方により主体的に継承されている(お祭りやお囃子などの文化的な部分)

イケていないポイント

- 路上喫煙のマナーが悪い
- 駅前で、イケてる情報(観光情報や街中の情報)が得られない。観光案内所も気づきにくい場所にある。
- 羽村高校へのアクセスが良くない(駅から歩くと20分以上、バスの本数が少なく、はむらんのタイミングが悪い)
- 都心へのアクセスが、あまりよくない
- 駅前の商業施設が乏しい(立川などには、カフェや本屋など、時間をつぶせる場所が多い)
- 何も変わらない(昭和・平成の時代から変わっていない印象。動物公園や他の公共施設、イベントなども今風に改善できることがありそう)
- 控えめなPR(もっと積極的にPRすれば全国区にもなれることもある。控えめにPRしているところが羽村らしさなのか、中途半端な感じでもある)

10年後の理想の暮らし

羽村市での暮らしに限定せず、10年後どのように暮らしていたいか、どのような生活ができるようになっているかをお話した上で、羽村に住み続けたいか、都心に住む理想はないかなどをお話しました。

蛇口をひねって安全な水道水がそのまま飲める羽村市であってほしい。

住む場所は、実家から程よい距離感があり、夫婦のそれぞれの実家までの距離がちょうどいい(中間地点)のところ。羽村はその位置にある。

例えば、将来結婚する人に、新宿に住んでと言われたらとても迷ってしまいますが …10年後も羽村に住んでいるイメージ。もし10年後家族を持った場合、今近くにある スーパーや学校など、なんでも近くにそろう羽村がそのままであってほしい。

気性の激しいタイプではないので、都会よりも羽村の方があっていると感じている。 なんでも身近にあるということが将来の生活の理想なので、羽村くらいが一番ちょう どよいと感じている。

大学時代は都心まで通って、頭痛がひどくなったこともあるが、羽村市では、そういったこともなく仕事ができており、ゆとりのある環境ができている。都会と田舎の間(とかいなか)で暮らすことが人間としての本能を養うことができると本でも学んだことがあり、それが羽村に当てはまると感じている。



- 経済的な自由が得られ、自己実現ができる時代になっている(いろいろな 働き方を選択でき、副業などの経済的自由が進み、自己実現ができる)
- 都会に住みたい気持ちはあまりないが、都会との関係性はもち、都心に集まる情報ともつながっていたい。
- 東日本大震災の際に、公共交通機関に頼らずに、通勤できることの意義を感じたので、職場と家が近い今の環境で生活していたい。
- 10年後は、自分の健康や、親の介護も心配になる年齢。10年後は、健康であり、常に笑っていられるような生活をしていたい。
- 自分や家族に安心・安全があってほしい。
- 地域活性化に関する取組みや旅行が好きなので、全国47都道府県の名産品、 郷土料理に囲まれた生活をしていたい。
- オンラインでの取組みが進み、自由な場所で仕事ができるようになっている。
- 10年後は、中央線沿いの勤務先に異動し、休日は趣味の演劇鑑賞をしたい。 今は羽村市内に勤務しているが、高校が高田馬場エリアだったこともあり、 いずれは、そのエリアに異動したい。しかし、多摩地域出身なので、住む ことを考えると都心まで30~40分程度の市部の方が良い。市部から区部に 通勤するイメージを持っている。
- 犬と一緒に入れるお店が増えてほしい。



かつてのワカモノは、都会に住みたい!という漠然とした想いがあった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、都心ではなく、郊外に住むということなどが、今までとは違った想いが見直されてきており、今後羽村市を魅力に感じる人たちも増えていく可能性がある。

10年後の羽村市はどんなまち?

「羽村のイメージ」「イケているところ・イケていないところ」「10年後の暮らし」の対話から出てきたキーワードは、

"ちょうどいい"

キーワードを受けて、羽村市の今後の方向性としては、今あるものをキープしていくことがよいのか、それとも尖ったものを打ち出していくのが良いかについてや、ちょうどよいまち羽村と言われても今一つ響いてこないため、違った言葉を出したほうがよいかなどをお話ししました。

- ◆ 市内在住の方は、そんなに変わってほしいとは思っていないと思う。今の羽村 にあるものを生かして、積極的にPRに力を入れていくことが良い。今回実施し た産業祭なども、市民は知っているが、その良さが市外の人にはあまり伝わっ ていない。
- ◆ 高校生は、遊びに行くなら、昭島や立川に行ってしまう。しかし、最近は片手にスムージーをもって羽村高校に通っている子がいて、駅前に店ができたと教えてもらった。駅前をみると、チェーン店が多い。おしゃれな店や個性的な店は、市内に点々と所在していて、車がないと移動が難しいイメージ。おしゃれな飲食店マップや、街めぐりができるレンタサイクルなど、羽村にあるものを知ってもらえるような取組みがあると良い。
- ◆ SNSでの発信などを含めて、羽村はコンパクトにまとまっている。他市はまちづくりに参画したいと思っても、どこに参加したらいいかなど分かりづらい。

- ◆ ファミリー層向けの飲食店が羽村市内に進出しているイメージである。区画整理事業が進んでいくと、さまざまなお店の進出、魅力あるまちづくりにつながっていく。
- ◆ 子どもの年齢(幼児期や小学生期など)によって子育ての考え方が変わってくる。少子化が進むことを踏まえると、ターゲット層を絞りながら子育てしやすいまちとして継続した取組みを進めていくことは大事なこと。子育てだけでなく、羽村市に長く住み続けてもらえるように、それ以降の生活をイメージしてもらえるような展開が必要だと思う。また、一時的に離れてもまた戻ってきてもらえることも必要ではないか。

市民ワークショップの意見 テキストマイニングによる分析

市民ワークショップ(一般市民向けワークショップ、子育て世代ワークショップ、若者世代向けワークショップ)で出た意見等を、AIによるテキストマイニングで分析・可視化し、傾向を示しました。

- ※テキストマイニングとは…文字データを、出現頻度や共出現の相関、出現傾向などを分析し、傾向を示す方法。 全体像の把握と、特徴的な傾向を把握するのに有用な手法であり、個別具体のものについては、別に検討が必要です。
- ※今回の分析においては、(ユーザーローカル テキストマイニングツール(https://textmining.userlocal.jp/)
 (無料版)を使用しました。

<図の見方>

・多く出現した言葉

多く出現した言葉が多いほど大きい文字で表示されています。

単語の色は、品詞による違い。青色:名詞、赤色:動詞、緑色:形容詞、灰色:その他

(出現頻度)…出てきたワードの回数で表したもの

(スコア)…単語の重要度で表したもので、一般的な文書ではあまり出現せず、今回の意見の中で良く出現する ワードを重視した仕組みを取り入れたもの

• 共起キーワード

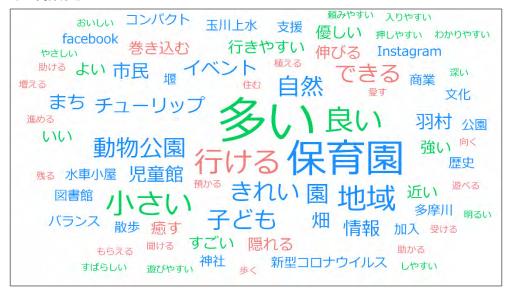
文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図です。

出現数が多い単語(言葉)ほど大きな円で示され、共起の程度が強いほど太い線で示されています。また、線で結ばれている円が近い距離のものは、共有に出現しており、共起関係があることを示しています。

1. 羽村市の良いところ・強み

(1) 多く出現した言葉

(出現頻度)



(スコア)

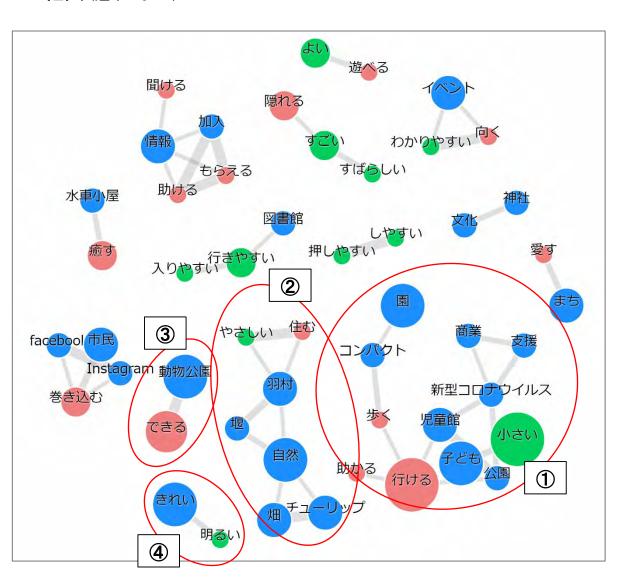


<分析結果>

- 出現頻度では、「多い」「良い」「小さい」「保育園」「動物公園」「地域」「行ける」「子ども」などが多い結果となっています。
- スコアでは、「水車小屋」「動物公園」「玉川上水」「児童館」「チューリップ」「頼みやすい」「押しやすい」「遊びやすい」「行きやすい」などが多い結果となっています。

分析: ユーザーローカル テキストマイニングツール (https://textmining.userlocal.jp/) (無料版) を使用

(2) 共起キーワード



<分析結果>

共起キーワードの図では、以下のことを示している傾向にあると考えられます。(特徴的な部分を中心に記述)

- ①・コンパクトで歩いて行ける
 - 小さい子ども
 - ・新型コロナウイルスの商業支援
- 新型コロナウイルスのときに公園に行けて助かる
- ②羽村は自然(堰やチューリップ畑)がある
- ③動物公園〇〇できる
- ④きれいで明るい

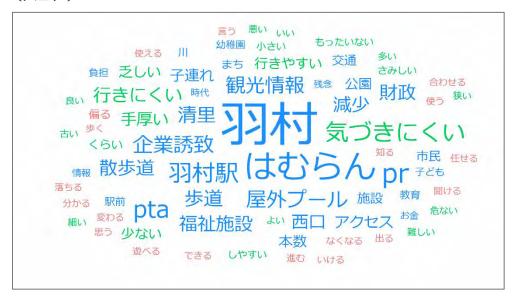
2. 羽村市の良くないところ・弱み

(1) 多く出現した言葉

(出現頻度)



(スコア)

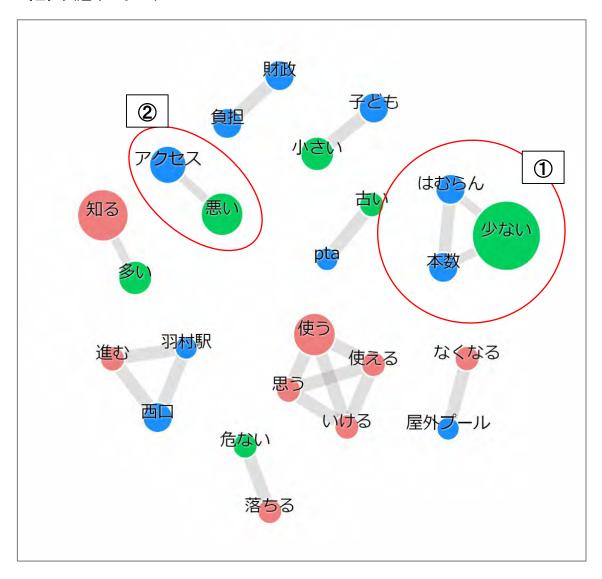


<分析結果>

- 出現頻度では、「少ない」「良い」「悪い」「公園」「知る」「使う」「できる」などが多い結果となっています。
- スコアでは「はむらん」「羽村駅」「企業誘致」 「屋外プール」「歩道」「福祉施設」「PR」「気 づきにくい」などが多い結果となっています。

分析: ユーザーローカル テキストマイニングツール (https://textmining.userlocal.jp/) (無料版) を使用

(2) 共起キーワード



<分析結果>

共起キーワードの図では、以下のことを示している傾向にあると考えられます。(特徴的な部分を中心に記述)

- ①はむらんの本数が少ない
- ②アクセスが悪い

3. 10年後の羽村市の姿、10年後の羽村市に必要なこと、できると良いこと

(1) 多く出現した言葉

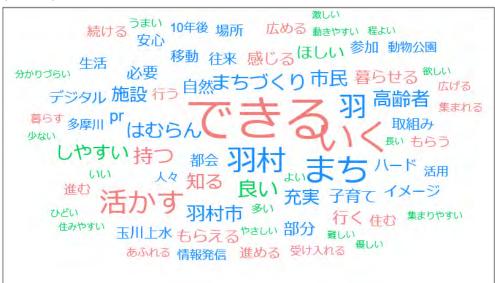
(出現頻度)



<分析結果>

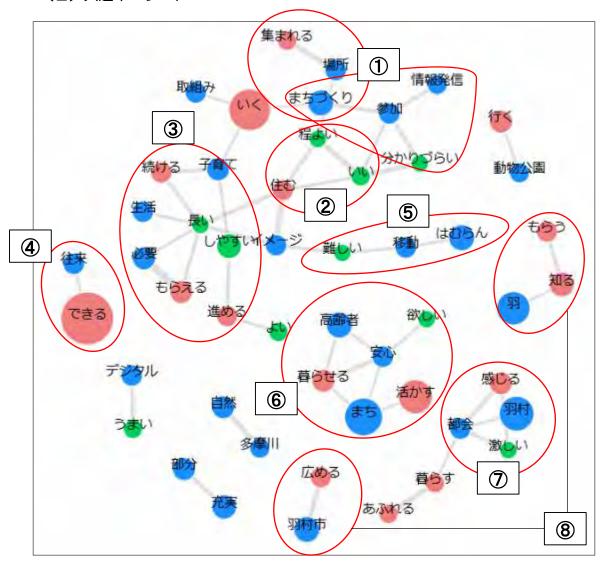
- 出現頻度では、「はむらん」「まちづくり」「玉川上水」「取組み」「動物公園」「情報発信」 「活かす」「暮らせる」などが多い結果となっています。
- スコアでは「できる」「いく」「活かす」「まち」「まちづくり」「はむらん」「高齢者」「充実」「しやすい」「良い」などが多い結果となっています。

(スコア)



分析: ユーザーローカル テキストマイニングツール (https://textmining.userlocal.jp/) (無料版) を使用

(2) 共起キーワード



<分析結果>

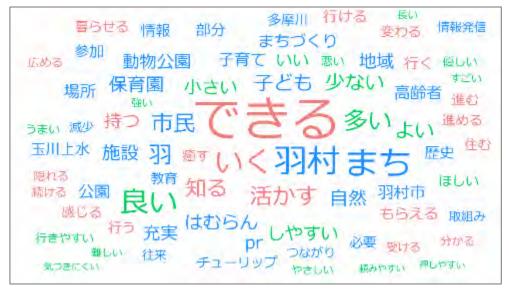
共起キーワードの図では、以下のことを示している傾向にあると考えられます。(特徴的な部分を中心に記述)

- ①まちづくりの場所や参加について (集まれる場所、情報発信、わかりづらい)
- ②住むのに程よい
- ③子育てしやすいことを進める
- ④往来できる
- ⑤はむらんの移動が難しい
- ⑥高齢者が安心して暮らせるまち
- ⑦羽村は都会
- ⑧羽村市を広める、知ってもらう

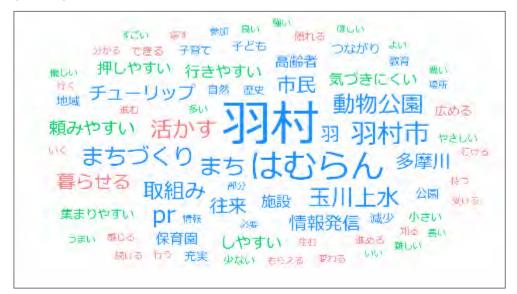
4. 「1」~「3」全て(参考)

(1) 多く出現した言葉

(出現頻度)



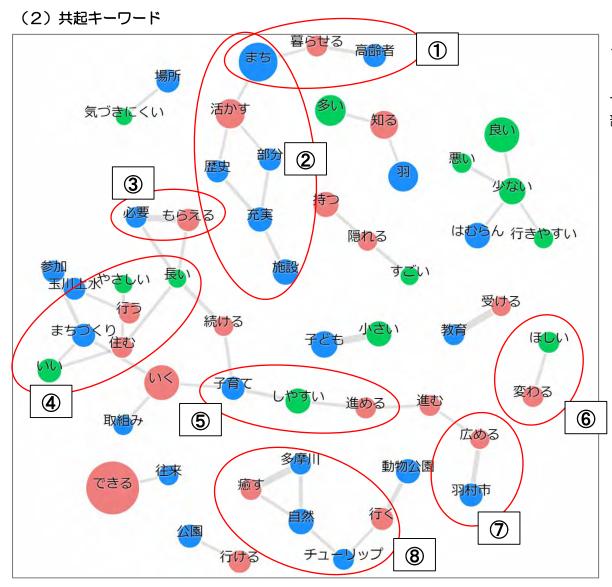
(スコア)



<分析結果>

- 出現頻度では、「できる」「まち」「いく」「良い」「活かす」などが多い結果となっています。
- スコアでは「はむらん」「まちづくり」「動物公園」「玉川上水」「多摩川」「情報発信」「活かす」などが多い結果となっています。

分析: ユーザーローカル テキストマイニングツール (https://textmining.userlocal.jp/) (無料版) を使用



く分析結果>

共起キーワードの図では、以下のことを示している傾向にあると考えられます。(特徴的な部分を中心に記述)

- ①高齢者が暮らせるまち
- ②充実した施設や歴史を活かしたまち
- ③必要なこと(もの)を(して)もらえる
- ④長く住むにはいい
- ⑤子育てしやすいを進める
- ⑥変わってほしい
- ⑦羽村市を広める
- ⑧多摩川やチューリップの自然が癒し

砂職員プロジェクトチームによる未来像などの検討結果



市若手職員を対象とした職員プロジェクトチームにおいて、マーケティングの手法を活用しながら、ターゲットに基づいた「まちのコンセプト(10年後の羽村市の未来像)やビジョン」「市のミッション」の検討、未来像を具現化するための具体的な取組みなどを検討し、提案しました。

【概要】

実施期間 令和2年8月~11月

参加職員 入庁2年目から8年目の市職員23人

※検討・提案は5つの班に分かれ、それぞれ実施しました。



提案 1

「子育て世代のUターンの促進(定住人口の増加)」

羽村市から引っ越した方などが子育てのために戻ってきたくなる事業を 展開し、羽村市への定住人口の増加を目指し、子育てしやすいまちのPR を行い、子育て世代がUターンしたくなるまちを実現する。

まちのコンセプト: 子育てしに戻ってきたくなるまち

まちのビジョン: 伸び伸びと子育てが出来る頼りあう事ができるまち

市のミッション:羽村市とかかわってくれた人を大切にする

まちのコンセプトを ①転出時から始まる断続的なPR

実現するための

→PR事業

取組み

・転出手続きの際チラシを手渡し など

(方向性・事業案) ②実体験によ

②実体験による定住イメージの醸成

→定住体験事業(お試し宿泊事業)

・市内各エリアにモデルハウスを作り、お試しで宿泊

・市内ツアーや羽村市民との交流

※モデルハウスは、空き家を民間委託でリベーション

③理想のマイホーム生活を後押し

→再定住優遇事業(居住家屋助成事業)

・過去10年以内に市に住民票を置いていた人が 一定の宅地面積を超える戸建て住宅を購入した 場合に、引越祝金(100万円)を支給 提案 2

「稼げる行政」

空き家等のストックを活かした新たな企業誘致を展開して、市内企業の 増加・成長や地域の雇用等につなげることで、市の安定的な財源確保の 基盤(財源の柱)となり、稼げる行政が実現する。

そして、経済循環を図ることは、羽村で生まれ・育ち・働くという次世代への"Re:サイクル(循環)"の実現にもつながり、安定的な財源確保と、充実した市民の暮らし(市民サービスの向上)を目指すことができる。

まちのコンセプト: 羽村で Re:スタート・アップ!

~これから成長していく新興企業の誘致~

まちのビジョン:はむらで働き、成長し、そして財源の「柱」となる

市のミッション:「地方共成と経済循環」

まちのコンセプトを 実現するための 取組み

(方向性·事業案)

空き家を活用した新興企業誘致事業の実施

・事務所移転を検討している企業に対し、市内にある空き家をオフィスとして提供

る空き家をオフィスとして提供 ・空き家け、所有考と交渉して「3

・空き家は、所有者と交渉して「羽村市空き家情報 バンク」へ登録し、立地条件、外観や内装の写真、 家賃または売却金額などを市公式サイトに掲載

・「空き家改修費用」「インターネット通信費用」「人 材育成費用」などの経費の一部について、企業の 規模(資本金等)に合わせた金額を補助

提案

「デジタル時代における「変化への対応」」

10年後には「当たり前」になっているデジタル時代。デジタル技術の活 用で、いつでもどこでもつながれる~スマートシティHAMURA~を実現し、 市民生活をサポート、利便性の向上を目指す。

羽村市は、コンパクトシティであるからこそ市民一人一人の声を反映し、 デジタル時代における社会の変化にも柔軟に対応できる。

まちのコンセプト: いつでもどこでもつながれる!

~スマートシティHAMURA~

まちのビジョン:市民と共に創り上げていくまちはむら

市のミッション:「共存と共創」

(方向性·事業案)

まちのコンセプトを 電子申請や電子決済(決裁)システムの導入

実現するための ・時間や場所に縛られずに、申請等ができる。

取組み

·Alチャットボットの導入で、必要な手続きの方法等 が、すぐに分かる。

・公共施設にも端末を設置することで、デジタル弱 者も利用しやすくなる。

※システム導入後は、市民等意見を取り入れて、 より使いやすいシステムに改善

提案

「働く」

外国人労働者の増加を見据え、外国人労働者向けの支援だけでなく、市 内企業に向けた支援策を展開し、対話や経験の中でお互いの本質を知り、 理解することで、外国人が安心して働ける社会を目指す。そして、そのような 取組みを通じ、外国人だけでなく、年齢や性別、性的思考に関わらず、さま ざまな多文化が"共働"するまちとなり、みんなが笑顔で、助け合いながら暮 らしていけるまちの実現につなげる。

まちのコンセプト: 多文化共生から多文化「共働」へ

まちのビジョン: 誰もが笑顔で手を取りあえるまち はむら

市のミッション:「理解と協力」

まちのコンセプトを 外国人の就職・就労支援

実現するための

・市内企業に向けた、外国人労働者の受入れに ついての説明会を実施

取組み (方向性·事業案)

・就職活動のマナーや一般常識などを学ぶ就職 講座の実施

・外国人労働者と企業のマッチング説明会を実施

・就職後に相談できる場を設定



「アフターコロナにおける防災の在り方」

行政と市民が連携しながら、高齢者に対する新しい避難体制を整備するとともに、避難所の運営にシステムを導 入して見える化し、自助・共助・公助が今以上に機能する体制を整えることで、市民が誰一人として避難しそびれる ことのないまちを実現する。 ※高齢者に対する体制整備後、障害者や子育て世帯などの要配慮者の避難体制を整備

まちのコンセプト: 行政と企業の連携で災害時に高齢者を取り残さないまち

まちのビジョン: 市民の命と生活を守るまち 市のミッション:自助・共助・公助の強化

実現するための 取組み

(方向性:事業案)

まちのコンセプトを ①民間事業者等との災害時「高齢者お助けカンパニー」制度に関する協定

・市から市内事業者の従業員へ災害時に協力を要請。

・災害時に情報の収集、救助活動、避難所間輸送等の活動を行う。

②避難所運営システム「羽村市スマート避難システム」の構築

・災害時の新型コロナウイルス等の感染症対策のため、避難所状況の見える化。

・運営側も市民も利用(閲覧)可能なシステムからさまざまな情報を管理・提供。



